

平成31年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	2年間の目標 (平成30年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (8月31日実施)	総合評価(3月17日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	将来の日本や国際社会でリーダーとして活躍できる高い資質、能力をもった人材を育成する教育課程編成、及び学習指導に学校全体で取り組む。	①新しい学習指導要領を踏まえ、発展的で高度な内容の授業実践を組織として充実させる。 ②昨年に引き続き新しい大学入試制度を視野に入れつつ本校にふさわしい新カリキュラムの検討に取り組む。	①優れた実績を有する他校への積極的な学校視察及び情報共有のための報告会の実施。 ②進学重点型主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の研究の推進。 ③大学入試改革に対応する具体的な取組を策定する。	①優れた実績を有する他校への学校視察及び職員への報告会が実施できたか。 ②校内職員対象進学重点型主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業研究説明会に参加し、授業改善に役立てたか。 ③大学入試改革への取組を示すことができたか。	①10月10日に授業研究会を実施した。 ②大阪府立茨木高校、灘高校、東京都立日比谷高校、横浜翠嵐高校、福井県立藤島高校、愛知県立岡崎高校に教員を派遣し、各校の取組について校内で報告会を実施し、情報共有した。 ③新入試に関する情報提供を会議等で行った。	①県外の高校へも学校視察に行けたことは大きな成果であり、引き続き優れた実績を残す学校の視察の機会を増やしたい。 ②新入試に関する情報を職員で共有し、進路指導、教科指導に生かす。	①自分の研究分野にかかわることだが、湘南高校の特長は、体力があるところである。灘高校や開成高校のデータと比較するとこの点が際立っており、卒業後のキャリア形成に大きく影響している。	①優れた実績のある他校を視察でき、職員会議後に報告会を実施することで、成果を全職員で共有できた。 ②大学入試英語成績提供システム「共通ID」に係る生徒等への説明を計画的に取り組み、不測の事態に対しても混乱なく収束できた。 ③④WGメンバーが得た情報を全職員にシェアする時間の確保が課題である。また本校にふさわしい新カリキュラムを策定する。	①②授業改善WGのメンバーが得た情報を全職員に十分シェアできるように、職員会議の後などに行う報告会等のさらなる充実を図る。 ③大学入試改革に係る国や大学の動きを注視し、生徒や保護者が動揺しないよう適切な情報提供に努める。 ④湘南のあり方を考える会などの議論を踏まえた新カリキュラムの策定を図る。
2 生徒指導・支援	①次世代リーダーとして、望ましい社会性、高い規範意識、心豊かで他者を思いやる人間性を育成する。 ②組織的で丁寧な個別の支援体制を確立する。	①部活動等を通して社会貢献活動やボランティア活動の一層の推進を図る。 ②学校いじめ防止基本方針や支援教育の視点を全職員で共有するとともに、個別の課題を解決するためのケース会議を充実させる。	①学校説明会や小学生フェスティバル等の学校行事での部活動のボランティア活動を支援する。 ②管理職、担任、養護教諭、教育相談コーディネーターとスクールカウンセラーが連携し、相談機関等を活用してケース会議で支援方針を立て個別の支援に取り組む。	①部活動等を通して社会貢献活動やボランティア活動が昨年の6部活から増加したか。 ②ケース会議の取組が課題解決につながったか。	①部活動等を通して社会貢献活動やボランティア活動を7部活が行った。 ②ケース会議の取組により、関係職員間で生徒の課題共有を図ることができ、きめ細かな指導につながった。	①部活によるボランティア事例を校内で情報共有することにより、社会貢献活動やボランティア活動への参加数を増やす。 ②ケース会議を必要とする事例への迅速な対応に向け、教育相談コーディネーターの数を増やすため、今年度1名の教員が新たに研修を受けた。	①部活動などで、地域との連携をしているとのことだが、学校としてその実態を把握しておくことは大切である。 ②湘南高校は生徒たちの伝統・文化に支えられている、生徒に助けられている学校であるという意識を教員が持つことが重要。	①吹奏楽部・剣道部の地域体育祭協力や吹奏楽部のショッピングモールでの演奏会、ジャグリング部の施設訪問など多彩な地域貢献活動を実施した。 ②ケース会議で、配慮が必要な生徒の情報を、学年を超えて当該生徒にかかわる教職員で共有できた。ケース会議に勤務日の関係でSCが参加できないことが課題である。	①敷地内を自主的に清掃したり、日ごろの活動の成果を地域で発表するなどの地道な地域貢献活動を広く発信する機会の充実を図るとともに、部活動での中学生との交流も継続する。 ②スクールカウンセラーが参加できないときは事前に養護教諭などに情報提供してもらうなどの工夫に努める。

	視点	2年間の目標 (平成30年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (8月31日実施)	総合評価(3月17日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	一人ひとりが将来を見据え、主体的に進路実現できる生徒を三年間を通して育成する。	①公立高校のフラッグシップであることを認識し、生徒が希望する難関大学進学を実現するため、最後まであきらめないよう粘り強く丁寧な指導を行う。 ②生徒一人ひとりの進路希望に対応する情報の提供に努める。	①②学力向上へ向け、進路希望や成績データを担任、教科担当者、部活動顧問などが共有できる組織づくりを進め、入学から卒業までを見通した進路指導体制を確立していく。 ①②授業研究会や入試問題研究会への職員の積極的な参加を促す。	①模試等の活用により、学力の定点観測を行えたか。 ①生徒の進路希望や実力テストの情報を共有できたか。 ②集会や講演会、説明会を通して本人、保護者へ複数回の丁寧な情報発信を行ったか。 ②職員の授業研究会や入試問題研究会等へ、昨年の43名と同数程度の参加者があったか。	①模試の活用等により、学力の定点観測を行った。 ①各学年で充実した生徒対象の講演会や説明会及び保護者対象の説明会を実施できた。 ②職員の授業研究会や入試問題研究会等に延べ40名が参加した。	①定点観測にはデータの蓄積が不可欠である。引き続き、模試等の活用によりデータに基づいた学力の定点観測を継続する。 ①講演会や説明会の内容のより一層の充実を図る。 ②全職員が授業研究会や入試問題研究会に参加できるわけではないので研究会で得た情報の共有を図る。	①湘南高校に相応しい学力を言葉として共有していくことが重要である。 ②灘高校や開成高校の生徒は卒業後に転職するケースが多いのに対し、湘南高校の卒業生は転職するケースは多くない。また、女性の卒業生が社会で刈る訳している率が高い。	①進路支援グループが進路の取組の方向性を明確に示しているため、組織的な対応ができています。 ①3年間を見通して計画的に配置した進路講演会を生徒対象や保護者対象にそれぞれ実施できた。次年度は体育祭日程に工夫が必要。 ②進路指導グループがリーダーシップを発揮し、「共通ID」の申込や中止の連絡を混乱なく組織的に実施できた。	①グループのメンバーが転勤等により変わっても、組織的な取組ができるよう引継ぎの充実を図る。 ①進路指導にとって曜日の配置が悪い次年度は、前期期末試験後に実施の3年生対象センター試験説明会を9月に実施するため、体育祭を例年とは異なり9月第2日曜日開催で調整する。
4	地域等との協働	地域との協働、連携による開かれた学校づくりを推進する。	①ホームページや学校説明会等の広報活動の内容をさらに充実させ、開かれた学校づくりを一層進める。	①最新の必要情報を提供できるようにホームページや学校説明会を改善していく。	①ホームページが適切に更新できたか。また、学校説明会等の広報活動により本校への理解度を高めることができたか。	①ホームページを活用し部活の結果等を迅速に更新できた。学校説明会のアンケートはほぼ満足したとの回答であった。	①ホームページ、学校説明会ともに、組織的な対応に向け、引継ぎの充実を図ることができた。	①コミュニティ・スクールは小学校のほうがやりやすく、高校は地域が広くやりにくいことは確かだが、自分の地域を知る取組を実施したほうが良い。	①県のシステム変更によりホームページの新しい仕組みに対応するため、グループ横断的な協力体制を模索できた。今後、新システムへの移行を目指して取り組む。	①新しいシステムによりホームページ作成が容易になることを受けて多くの職員が関わられるような取組を図る。 ①引き続き小学生フェスティバルの充実を図る。
5	学校管理 学校運営	社会から信頼される学校づくりを推進し、事故、不祥事の防止を徹底する。	①事故、不祥事防止について不断の意識徹底を図り、根絶に努めるとともに、保護者、県民への丁寧な対応に努める。 ②DIGの実施など、安全、安心に対する意識の向上を図り防災対策の充実を図る。	①日常業務で注意意識が薄れぬよう、定期的な事故不祥事防止会議を実施する。 ②大規模地震等に備え、実践的防災訓練として、DIGを実施する。	①不祥事防止会議を適正に実施し、不祥事を0件にすることができたか。 ②緊急時における人員掌握及び保護者への連絡体制を整えたか。実践的防災訓練として、DIGが実施できたか。	①事故防止会議を毎月開催した結果、不祥事0を達成した。 ②学年行事としてDIGを取り入れ、専門の組織と連携して1学年全員が実施できた。	①迅速、的確な情報提供や注意喚起に努め、不祥事0を継続する。 インシデント事案は共有し、速やかに対策を立てる。 ②学年全体でDIGに取り組めたことに満足せず、引き続き取組の充実を図る。	②地域防災に関して、万が一の際に湘南高校の体育館やセミナーハウスは活用するが、校舎は(生徒がいるので)地域の方が利用する想定はしていない。	①事故を起こすことがなかった。引き続き職員の意識啓発を図ることが課題である。 ②1学年でDIGに取り組むカリキュラムを定着できた。	①職員が常に高い意識を持ち続けるよう、打合せや会議で情報提供に努める。 ②DIGの取組のさらなる充実を図る。